市民文芸

短歌

令和八年度
第五十五回阿南市短歌会春季大会　選

入選
後ろ指刺されぬように刺さぬよう障害者のせい生きた私は　佐野　智子
入選
装いの新たな駅の吹きさらし手を擦り合わせ暖とる老女　井坂　稔
入選
うっすらとホルンケースに雪のせて帰りくる孫にきりたんぽ鍋　浅海　弥生
入選
さだまさし歌う「いのちの理由」を聴き心洗われ涙あふれる　十河　慶子
入選
篆書にて孫が書きたる馬の文字今にも動き出しそうで良い　福崎　由美
入選
立春を過ぎると迫る田仕事へ気持忙しく段取りつける　高尾　久枝
入選
鈴生りのレモンが醸す明るさに近寄りて未明時計を覗く　中野　春子
入選
蝋梅の枝のすき間の青空をＪＡＬ旅客機が関空へ飛ぶ　村上　富子
入選
亡き夫の遺影の写真優しくて「頑張ってるよ」と微笑みかえす　青木　弘子
入選
遺品なる娘の愛用の皮カバンみがいて吾の顔うつしみる　車田マサ子
入選
仏壇の前にすわりて経を読む腎臓ひとつで生きぬいた亡父　澤田　素子
入選
生きていた商売人のど根性静かな姉の駆け引き上手　佐野　幸子
入選
母ちゃんの手はぬくかった握って歩く散歩への道　長尾　久子

俳句

阿南市俳句連合会　選

行く秋や歴代将軍像の照り　横井　知昭
賢治忌や銀河鉄道夢ロマン　岡田　茂子
安曇野の湧水盛ん走り蕎麦　青木　慧
膝の子も立てば剣士や秋稽古　久米　千草
人影を気にせず岸に眠る鴨　小西　晴美
菜を間引く二葉の形選り分けて　鈴木　順子
豊作の供物山積み秋祭り　神野千鶴子
仕事残し釣瓶落しの家路かな　谷　由美子
子どもらはライフジャケット秋日和　大西　裕子
拝殿に納める幟小鳥来る　中川よし子

川柳

阿南川柳会　選

もし願い叶えられたら走りたい　表原　節子
まだ負けぬ鱧はまな板大暴れ　篠原　良子
川柳で続く笑顔の夫婦愛　西田　修身
かみ合わぬ話互いに茶を濁す　野村　敏子
座布団に温もり残し会終る　橋本　征介
羽根あれば飛んで行きたい宝島　若木アヤ子
空家の事子孫に残す負の遺産　渡邉ろまん

一般応募
外人に喜び揺れるかずら橋　泰地　重美
老いて今つっかい棒が居る安堵　武田　敏子
老い一人テレビドラマで時刻む　福島　義明

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社　選

歳晩偶成　原　美智子
鳥兎怱怱歳又残
嘆無高作祭詩壇
老躯忘刻孤灯下
字字推敲坐夜闌

鳥兎怱怱　歳又残し
高作無きを嘆ず　祭詩の壇
老躯刻を忘る　孤灯の下
字字の推敲　夜闌に坐す

美酒杯に満つ　山川　治
雨余帰舎晩来秋
緑酒一壷開我愁
平素間関何足問
銜杯歓酔老風流

雨余　舎に帰る　晩来の秋
緑酒一壷　我が愁いを開く
平素の間関　何ぞ問うに足らん
杯を銜みて歓酔し　風流に老ゆ

坂本龍馬銅像　折野　博子
青松月影桂浜辺
碧海茫洋風颯然
豪気堂堂龍馬像
維新基業土州賢

青松月影　桂浜の辺
碧海茫洋　風　颯然たり
豪気堂堂　龍馬の像
維新の基業　土州の賢

